

上宇部小学校 保護者の皆様

「えがお de サロン」のお知らせ

2学期末保護者会にあわせて、下記のとおり、「えがお de サロン」を開催します。

～えがお de サロンとは～

お茶やコーヒーを飲みながら、みんなで交流を深める場です。
お子さんのちょっと気になることや、誰に聞いたらいいかわからない学校のことなど、先輩ママさんたちと気軽におしゃべりしてみませんか？
保護者の皆様お誘い合わせのうえ、お子様とご一緒に遊びに来てください♪



12月22日(水)

13時30分～16時30分

【場所】 児童棟1階 多目的室

体験しよう♪
缶バッチ作り
おいがみ

子育ての関係の本も揃えています！

待機場所としてご利用ください
お母さん同士の雑談もOKです！



主催 宇部市教育委員会
「こどもえがおサポートチーム」

～こどもえがおサポートチームとは～
スクールソーシャルワーカーと、こどもえがおサポーター（先輩ママさん）が悩みを抱えるご家庭を支援するチームです



※新型コロナウイルスの感染拡大状況によっては、開催内容を変更することがあります。

③ 効果のあった支援事例を紹介します!

case

■チーム員への聞き取りから

【ケース-1】 元気に登校する日が増えました

Aさんの母親は日々の生活に疲れ、学校を休みがちなAさんに登校を促す元気がないとのこと、学校から依頼を受け、支援を開始しました。訪問する際の母親の負担を少なくするため、朝、チームを2回帰して5分待ち、子どもが出てきたら一緒に登校をすることにしました。また、カシッターを活用し、Aさんと一緒に一週間の目標を立てるようにしました。次第にAさんに変化が見られ、元気に登校する日が増えました。



【ケース-2】

ありのままの子どもを受け入れられるようになった
Bさんの母親は教育熱心で、「こうあるべきだ」という考えが強い傾向にありました。家庭訪問の際は、母親の話を傾聴し、時にはアドバイザーも行いました。支援を続けていくうちに、Bさんの母親も「Bさんに合った生き方がある」と考えられるようになり、ありのままのBさんを受け入れられるようになったようです。Bさんの母親は、以前に比べて肩の力を抜いて子育てをしているように思います。

支援の対象イメージ



専門的な対応が必要な場合は、早急に専門機関につなぎます。



児童福祉所、学校、専門機関による対応
家庭教育支援チームによる対応

【ケース-3】

担任とのつながりをつくるきっかけになった

Cさんの母親は、責任感が強く全てを抱え込んでしまう傾向にありました。また、これまでの学校の対応に不信感をもっていました。Cさんが不登校になったことをきっかけに、チーム員が家庭訪問を開始し、母親の話を傾聴することで、母親の表情が和らいできました。学期末懇談会で、母親、担任、チーム員の3人で話し、それをきっかけに母親と担任との関係もよくなってきました。現在は、母親と学校(担任や教育相談担当等)が話をする機会を定期的に設けています。



【ケース-4】

チーム員やSSWの支援が 母親の就労につながった

Dさんの家庭は、ひとり親家庭で母親は働いていませんでした。Dさんが中学校に入学して不登校になったことをきっかけに、家庭訪問を開始しました。母親は懇談会に出席しましたが、チーム員が家庭を訪問し母親の話を傾聴することで次第にチーム員に心を開くようになってきました。チーム員の誘いでサロンに参加し、そこでSSWとのつながりができました。その後、SSWの働きかけにより母親は新しい仕事に就き、少しずつ家庭が安定してきました。



【ケース-5】

専門機関への橋渡しで 子どもの生活改善につながった

Eさんの家庭はひとり親家庭です。母親の身なりはきちんとしていたものの、子どもの衣服等はいつも汚れていました。地域の人からの連絡があり、家庭訪問を開始しました。子育てが困難な家庭の状況を学校に伝え、学校から児童相談所に連絡しました。その後、Eさんの生活環境は改善され、現在、Eさんは毎日元気に登校しています。

